

角 田 山 ・ 弥 彦 山 山 行 記 録



角田山頂小屋



目的地	角田山（稲島）・弥彦山	期 日	平成 17 年 2 月 6 日（日）
山行人	笠原正雄単独	特 記	Y.H.C.に復帰しての初回山行

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前 8:40 発	曇	出発直前まで天気予報を注視し、白山又は米山を検討したが、いずれも湿雪及びみぞれで断念し、このコースとした。
稲 島 P	9:40 発	曇時折日差し	駐車場は満車、道路にとめる。登山道は雪。先週購入したプラスチックパイクの長靴と 2 本杖で歩き始める。入山者はとても多い。右手に立派な東屋。それを過ぎるとジグザグにつけられた道の急登。階段道と聞いたが、雪でそれが分からなくなっている。長靴歩行者が殆どで登山靴の人は少数だ。途中キジ。尾根に上がると海からの風やや強く、雪質も変化する。
山 頂	10:40	〃	向陽道林社で一服、平野は陽があたっている所もあり、良く展望できるが、向かいの五頭方面や川内の山は雲が垂れこめていて全然見えない。山頂広場でツェルト 1 張、浅い雪洞でくつろぐ者 1 人。小屋は薪の燃えるにおいが郷愁を呼ぶ。満員。のぞいた程度で下山とした。
稲 島 P	11:15 着	〃	もう一度向陽道林社に立ち寄り、軽アイゼンを装着する。駐車場に到着後すぐに弥彦に向かう。
弥彦神社 P	11:50 発	〃	ここも階段道が雪で覆われていて無雪時より歩き易い。角田に比して入山者は予想より少ない。今までで一番少ないと思う。
里 見 の 松	0:40～0:50	〃	この辺りから雪質が変わる。3 人が追い越して行く。雪が無い時は皆ここで腰を降ろすのだが、寒さから先を急いでいるのだろうか、誰も休憩しないで通過して行く。ウイスキーを一口飲む。展望は角田と同様だ。
ロープウェイ山頂駅	1:10～1:55	曇	9 合目コルに上がるとここも海からの風がやや強い。向こうは鉛色の雲だ。レストランはシャッターが降りている。ベンチも雪で覆われている。一夫婦が風を避けていただけだった。少し降りて駅舎に入って売店脇のテーブルに座る。ラーメンを煮るつもりだったが、外は寒いので、売店のカップラーメン(¥250)を注文して、パンと一緒に食べる。登山者が 10 人程いた。同席させてもらった単独の同年代男性は燕からと言う。しかし昨年よりよく燕の人と出遭う。今日はここまでで下山とした。
弥彦神社 P	2:55 着	曇時折日差し	やはり軽アイゼンで下る。里見の松ではずす。その後足を滑らせて 2 回しりもちをついた。アイゼンはずすタイミングが早過ぎた。妻に頼まれた金賞まんじゅうを買って帰路につく。

角田山は灯台コースを 2 回登ったきりだ。稲島からの登りは結構なアルバイトで、汗をかいた。角田下山後一度車で移動して体が戻ってしまったからか、弥彦の登りは足が重かった。正月 3 日の弥彦から 1 ヶ月ぶりの山行で、翌日の昼ころから腿の筋肉痛となった。降雪は無く両行程とも雨具なしで歩いた。